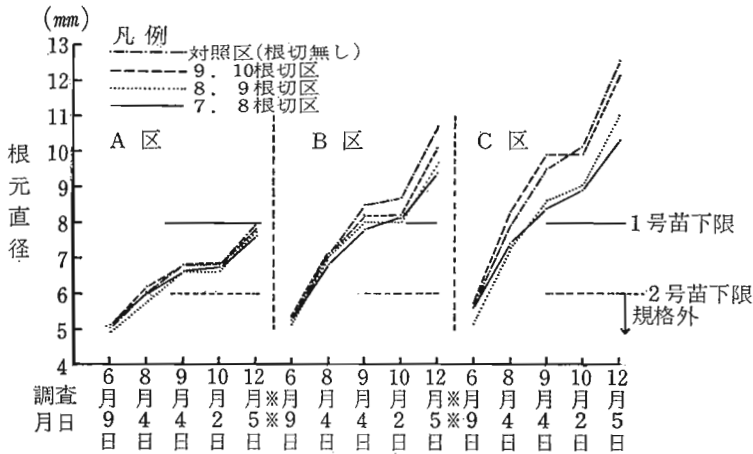


図一 床替間隔ごとの根切効果 (苗高)
 1号苗の苗長 45cm~70cm
 2号苗の苗長 35cm~65cm
 (48年度九州地区実生スギ2年生規格考による。)



図二 床替間隔ごとの根切効果 (根元直径)
 1号苗の根元直径 8.0 mm 以上
 2号苗の根元直径 6.0 mm 以上
 (48年度九州地区実生スギ2年生規格による)

このように各床替間隔によって根切およびその時期の効果にちがいがみられる。すなわち床替密度のちがいによって苗木の生長の良否が決まり、生長の旺盛なものほど根切の効果は大きいと思われる。

なお根切処理と床替間隔との間に交互作用が有意であった。

2) 根元直径

苗高と同様に床替間隔がせまいほど根元直径は小さくなる。根元直径の生長過程を見ると(図-2)9月から10月にかけて、根切、間隔に関係なく肥大休止時期があり、10月以降急速に太る。休止後の肥大率は、根切の有無より、床替間隔によって異なる。根元直径は、床替間隔、根切処理とも有意差があり、交互作用も有意であった。

3) 枝張り

床替間隔のみに有意差が見られ低密度のものは水平に枝を張って大きく、高密度のものは上向きで小さい。

4) 地上部重, 地下部重

両者とも、根切処理、床替間隔に有意差が見られるが、床替間隔による影響が大きく高密度のものほど軽

くなる。地上部重は、苗高 ($r=0.65\sim0.75^{**}$)、枝張り ($r=0.6\sim0.7^{**}$)、地下部重 ($r=0.8\sim0.9^{**}$) との関係が大きい。

5) TR率

根切時期がおそくなるに従い大きくなる傾向を示す。根切の7, 8月区では植付間隔に関係なくTR率は2~3の範囲におさまる。9, 10月区, 対照区の苗は3~6と大きく徒長苗になりやすい。

6) 総合結果

苗木の形状は連続分布するので良苗の規格の値をどこに決めるかは問題の多いところであるが、九州地区48年度の山行苗の規格によって山行率を比較すると、床替間隔別ではA区(70本/ m^2)が山行率が高い。根切時期別では、7, 8月区が高い値となる。根切時期がおそくなるに従って根元直径は規格内に入るが苗高が高く徒長苗となる。

今回の試験では、床替間隔ではA区(70本/ m^2)、B区(30本/ m^2)が、根切時期では7, 8月の2回実施が山行率が高い結果となった。